

性的少数者への理解に関するアンケート集計結果(抜粋)

資料 3

啓発・教育のあり方

- ① さまざまな立場の人が住みよい県になってほしいと思いますが、その過程で、性的少数者に対する捉え方もさまざまだと思うので、地道な啓発も必要だと感じます。
- ② 「性的少数者」という言葉はテレビや雑誌などでも聞いたり、見たりしたことがあります。が、身近なことだと思われていないと思います。
- ③ まだまだ、知らない事ばかりな領域で、かなりデリケートな事だと思います。様々な方面からの情報を正しくキャッチしたいと感じています。
- ④ まだまだ都会でのこと、という認識が強いように思います。特にローカルでは、年配の方々の理解が重要かと思えます。その点で信頼ある行政の取り組みはとても重要ではと感じます。
- ⑤ 大人への啓発だけでなく次世代を担う若い世代への教育が重要と考えます。
- ⑥ あらゆる社会的問題についてほとんどの人は「無関心」なのではなく「未認知」なだけだと思っています。知る機会を設け、みんなが認知した上で議論できるような環境作りが必要だと思います。ドラマ、映画、マンガ、アニメなどは「こんな世界もあるんだよ」「こんな真実もあるよ」ということを伝えていく手段として有効だと思います。
- ⑦ 性的少数者に対する理解を広めようとする啓発運動なども必要だと考えます。しかしながら、啓発事業の参加者が性的少数者に対して「理解をしてあげる」スタンスにならないようお願いをしたいところです。そのようなスタンスでは、人は異性愛者として存在することが大前提になってしまい、余計に分断を煽ってしまうためです。性自認も性的指向も人それぞれグラデーションがあり異性愛者もそのうちの一角でしかない、性的少数者が特殊なわけではないと、啓発していただきたく存じます。
- ⑧ 特に教員や議員の方々に、LGBTQ当事者と接する機会を持って頂き(ざっくばらんな対話型の講演会など)正しい知識、見解を持って頂きたいです。当事者から「直接」話を聞くまでは、どれほど、何が困っているのかしっかりとイメージ出来ない方がいても仕方がないと思います。ぜひ直接関わって欲しい、生の声を聞いて頂きたいと思えます。
- ⑨ 少数者の方の意見が反映されるためには、法制度や都市計画、行政の計画などの決定や意見交換がなされる場に、少数当事者の直接参加が必須だと思います。当事者が加わっていないと、実際に何に困っているのか、どうするといいいのか、アイデアや意見、問題点も分からないと思います。
- ⑩ みんなに知ってもらおう!と言う事も必要ですが、実際に暮らす中で、生活しやすくなる、困りが改善する、と言う所に力をいれるとよいと思います。
- ⑪ 性的少数者の方がどのような不自由を感じているの分からないので、その普及啓発が必要と考える。例えば、公営住宅の入居要件がなぜ家族であることなのか、そこから見直してはどうかと思う。まずは性的少数者の方の暮らしにくさ(精神的なものではなく制度的なもの)を行政が多くの人に啓発し、そして様々な制度が変わっていけばいいと考える。
- ⑫ 性は遺伝子の仕組みで、様々なパターンがあり得ること、そのため男性、女性の性は曖昧であることなどを科学的に啓発することも必要だと思います
- ⑬ 性的マイノリティーは別に他の人達と変わりません。理解が深まるのは良いことですが、必要以上に気にしたり腫れ物のように扱われるのは少々居心地が悪いです。いつかはこういった話題が登らず普通の人と同じように接してくれる社会になる事を望んでいます。

啓発・教育のあり方(つづき)

- 行政による啓蒙活動は必要だが過剰に優遇する必要はない。思春期の世代のフォロー出来る環境作りは必要だと思う。
- 自分自身その当事者であるが生活する上での不便はそこまで感じない。ただ、世代によっては認識不足から不当な扱いを受けることがあるし頭では理解してても気持ちとして受け止められないという人が居るのも現実にある。中途半端な情報を与えると職場や学校で魔女狩りのように当事者を追い詰める可能性があるのも、専門的な知識や情報を知ってもらう機会や場を多くの人に設けて欲しいと思う。
- ⑭ 新しく制度を設けるのはありがたいが執行する側の人間の意識改革と真の意味の理解が無いと当事者は救えないと思うし頼りたいと思っても不信感が残る。パフォーマンス的な意味での制度作りであるなら性的少数者という言葉を目立たせないでいただきたい。ただ、性的少数者であっても平穩に生活出来る環境を与えて欲しい。
- 私の年代の人達は、差別的判断材料にしてしまいそうです。
- ⑮ 色々な意味で理解しあうための歩み寄り社会を構築する機会には行政が率先して認めていかなければ、個々の人達は隠し続けることがベストだと思いがちでしょう。公に認められることで、個人の人格が尊重されるのならそれがベストですから、行政からの発信が大きく左右し続けると思います。
- ⑯ 性的少数者に配慮するあまり、性的多数者の権利を侵害することがないようにすることも同じくらい大事だと思われるので、バランスを意識しながら施策の推進をしてほしい。
- ⑰ 若者が自己自認が未形成のうちに間違っで学ぶと、良くない影響があると思います

その他

- ① これまでの当たり前が、今の現状に合わない。もっと柔軟にとりくむべきだと思います。養子制度や精子提供、代理出産なども含めた全体での考えが必要かと。
- ② 13人に1人が性的少数派と言われている民間の調査結果は、実感として信じがたい。行政が実態を調査して、身近な真実を公表すべき。
- ③ 区別と差別は違うと思う。何でも差別と言うのはどうかと思う。
- ④ 少子化を助長してしまうようで、性的少数派をあまり容認し過ぎても良くないと思う部分もあります。
- ⑤ 人間はそもそも、オス、メス、男、女、で構成されており、性的少数者は病気の一つと考えます。相談窓口を設け、他の病気と同じように医学的治療を行なうべきです。